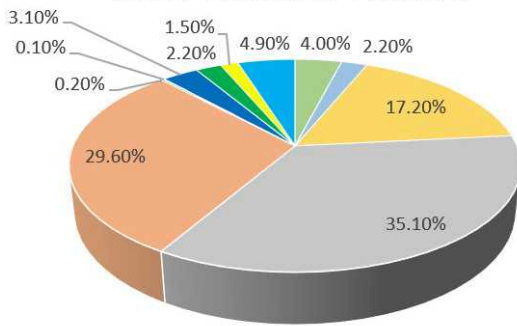
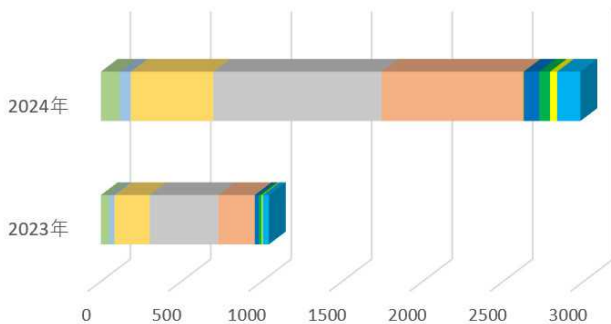


2024年は1月に柳町デイケア、2月に柳町診療所がウトナイ病院に統合され、変化の一年となりました。今号では2024年ウトナイ病院精神科外来を振り返ってみようと思います。

2024年 外来受診者の疾病分布



外来受診者数（実人数）



- 症状性を含む器質性精神障害
- 精神作用物質使用による精神及び行動の障害
- 統合失調症 ■ 気分障害
- 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害
- 精神遅滞 ■ 精神的発達の障害
- 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害
- 神経系の疾患

2024年のウトナイ病院は1月に柳町デイケア、2月に柳町診療所が合流し、新体制で外来診療が行われた年でした。ウトナイ病院の前身である植苗病院とは違い、外来部門がすべて統合されたことにより、午前診療のみの内科も含めると午前は3～4診制、午後は1～2診制となり、より多くの患者さんに対応できるようになりました。統合初日は4診体制だったため、午前中だけで100人近くの方が受診され、外来はたくさんの方で溢れていました。年間の外来受診者数も2023年時の植苗病院に比べて3倍とかなり増えています。またそれに加えて外来受付の手順が変更されたことや、公共交通機関と当院の巡回バスの乗り継ぎに関する問い合わせが増えたこともあり、初めのうちは混乱が生じました。しかし、現在ではその混乱も解消され、スムーズな受診が可能となっています。

精神科外来においては、受診年齢層が高校生から高齢者まで幅広くなっており、昨年の外来受診者数（実人数）は2980人となっています。診断状況を見ても、うつ病を含む気分障害が大きな割合を占めており、次いで神経症やストレス関連障害、統合失調症が続いています。特に注目すべきは、2023年と比較して小児期および青年期に通常発症

する行動および情緒の障害の割合が0.7%から1.5%に増加した点です。このことから高齢者だけではなく若年層の受診が増えていることがうかがえます。

現在、認知症判定を含む高齢者層の受診増加や若年層におけるメンタルヘルスの相談が増えており、新患の方には受診まで大変長い時間お待ちいただいています。ウトナイ病院では受診環境がより良いものになる様に外来と事務とで定期的に話し合いの場を設けています。また、職員だけではなく皆様の意見を取り入れながら、地域で必要とされる支援を構築していけるよう努めていきたいと考えています。



精神科医 田中 尚朗

第23回 駅探訪 ワイオミング・ヒル駅

みなさんこんにちは。こちらではついにトランプ大統領が就任し、世間も騒々しくなってきたところです。残念なことに、新大統領はやはり鉄道マニアではなく、就任演説でも鉄道について触れることはまったくありませんでした(当然か)。まあ、大統領には無視されてしまいましたが、こちらでも元気に鉄道について取り上げていきたいと思えます。

今回訪れるのは、前回のオーク・グローブ駅から北へ2 kmほど離れたワイオミング・ヒル駅です。メルローズという市の南端にあり、周辺には商店街などはなく、住宅地の中にある静かな駅です。ボストン・アンド・メイン鉄道の駅として、1850年に開設されています。このときは近所の住人の名前にちなんでボードマン交差点と呼ばれていました。1851年の初代駅舎の供用とともに駅名をワイオミングに改称。1901年には石造の立派な2代目駅舎が完成しましたが、やはり鉄道の衰退とともに1977年に取り壊されてしまいました。1978年にここで近郊路線を走らせるMBTAが現在の駅名に改称しています。

オーク・グローブ駅には複線のオレンジラインと単線の通勤ターレールの3本の路線で入るわけですが、ここをでるとまもなくオレンジラインの線はなくなり、通勤ターレールの1線だけとなり、急に寂しい感じになります。

駅の構造は2面2線、両線路の間にネットが設置され、勝手に横断できないようになっています。なにしろ駅員がいないのですから、こうでもしないと列車も安全に通行できないでしょう。反対側のホームに行くには、いったん駅構内を出て一般道を通ることになります。ちなみにボストン近郊では基幹駅を除けば駅員は配置されていません。防犯カメラは設置されているようですが、誰も鉄道に興味があるわけではなく、撮影スポットをめぐる不毛な争いなど起こるはずもないので、これで問題ないわけです。



Dr. 望月の日々雑感

ハワイで死ぬまでに日本でやりたいことを聞いてみたという新聞記事がありました。1番目は札幌雪祭りです。1年前からホテルを予約しているそうです。2番目は奈良公園でシカにせんべいをあげたいというものでした。死ぬまで奈良公園に行きたいと願っているようです。京都や大阪よりも人気があるそうです。ちなみに日本人がアメリカで行きたいところはグランドキャニオン、イエローストーンなどの大自然の迫力があり、かつパワースポット的な場所のようです。日本の桜を見るために大勢の外国人が来日しますが、桜が満開とは限らないこともあり、必ずリベンジすると意気込んでいる人も多いようです。皆さんも是非「死ぬ前に訪れる」素敵な場所を考えてみて貯金してみませんか。

デイケア川柳

今月のデイケア川柳は同点首位だったため4句掲載となりました。

夢じゃないあきらめなかった選手たち ★けいじ
 明日もある夢みる心大切ね ★克彦
 希望持ちやる気忘れず叶うまで ★あいか
 つかまえた水に写りし月うさぎ ★立幸



昨年は元旦早々能登半島地震で大変な幕開けとなったが、一年が過ぎても現地には中々復旧の手が届かないようで、未だに厳しい状況のニュースに触れると胸が痛む。そして今年は阪神淡路大震災から30年になる。当時の驚きはその後の数多の震災を経た今でも大きくは変わらないような気がする。やはり外傷的な体験は色褪せることが少ないのかもしれない。日々思い出すことはないし当時の衝撃は薄れているのだが、それでもその当時のあれやこれやが脳裏に浮かんで消えるという時を過ごしている。震災と直接には関係のないこともその時期に前後する人生の一齣として蘇ってくる。辛いとか悲しいとか特定の感情の言葉には置き換えられない不定形な感情がぼんやりと浮かんで消える感じ。人の一生はそういう目で見れば無数の傷跡の産物とも言えるかもしれない。幸福な出来事も幸福な形の傷跡を遺す。現実には克服したり乗り越えたりしなければならぬ事が沢山あるのだが、傷に覆われた人生を生きねばならないのなら、傷をいたわり慈しむ気持ちもどこかで持っていたいとも思う。『世界は心的外傷に満ちている。"心の傷を癒すということ"は、精神医学や心理学に任せてすむことではない。それは社会のあり方として、今を生きる私たち全員に問われていることなのである。』安克昌「心の傷を癒すということ」作品社

(K.M)

お知らせ

この度、広報委員会では近年の省資源化とデジタル環境への移行を鑑みて、2025年4月より「うとない」の発行部数を減らすことにいたしました。社会医療法人こぶしホームページでの配信を基本とし、郵送による配布は請求書に同封する場合のみとさせていただきます。毎月10日に更新の予定ですので、ホームページをチェックしていただけますと幸いです。何卒ご理解賜りますとともに、今後とも「うとない」をご愛読いただけますようよろしくお願い致します。

ウトナイ病院ホームページ： <https://www.uenae-hp.or.jp/about/#about-3>

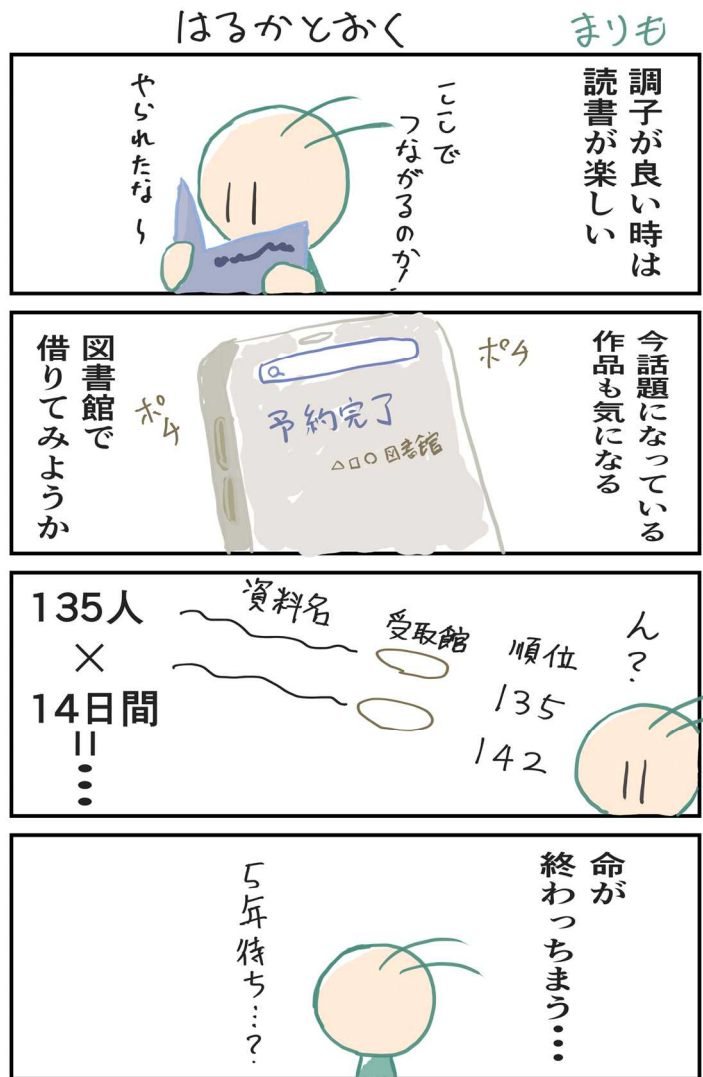


お知らせ

◆ 電話についてのお願い ◆

代表番号に電話が集中することを防ぐため、下記のように使い分けていただけますようご協力をお願い致します。

- ① 外来や入院の新患受診相談 ⇒ 地域連携室直通 **0144(84)5658**
- ② 受診に関することや会計・手続等のお問い合わせ ⇒ 代表電話 **0144(84)5561**
- ③ 入院中の方のご相談・ご連絡 ⇒ リハビリテーション部直通 **0144(84)1017**
- ④ デイケア通所中の方 ⇒ デイケア直通 **0144(84)5774**



病む人と出会い
病む人を支え
病む人に学ぶ

発行
社会医療法人こびし広報委員会
苫小牧市ウトナイ南2丁目1-8
TEL:0144-84-5561
<http://www.uenae-hp.or.jp/>



帳尻は合っているのか？

〈後記〉地球の体調が悪いらしく、暑くかったり、寒かったりしていましたが、雪だけは帳尻を合わせてきましたね。もしかすると道民のこんな少ない雪で終わるはずがないという恐れが伝わったのかも。であれば、もう雪はいらないですね。

(K.S)